

日本民間生薬検定試験問題【初級】

(令和5年12月3日実施)

受験番号

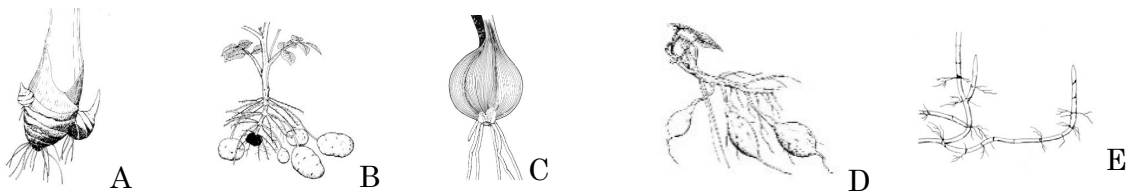
氏名

1】下図は植物の地下部を描いた模式図である。設問に該当する用語を用語欄から選び〔a 〕内に、該当する植物を植物欄から選び〔b 〕内に、それぞれ一つ選んで記号で答えなさい。 10点

1. Aは地下茎の一つで、茎の下端で節間が短縮し、肥大したもの。〔a オ 〕〔b エ 〕
2. Bは地下茎の一つで、地下茎の先端が不定形に肥大したもの。〔a イ 〕〔b ウ 〕
3. Cは地下茎の一つで、茎の下端で節間が短縮し、多肉化した葉を密に付けたもの〔a ウ 〕〔b イ 〕
4. Dは根の一部が肥大したもの。〔a エ 〕〔b オ 〕
5. Eは地下茎の一つで、水平方向にのびたもの。広い意味で〔a ア 〕といわれる。〔b ア 〕

用語欄：ア) ストロク、イ) 塊茎、ウ) 鱗茎、エ) 塊根、オ) 球茎

植物欄：ア) ドクダミ、イ) タマネギ、ウ) ジャガイモ、エ) サトイモ、オ) サツマイモ



2】ダイコンとカブの説明である。()内に正しいものには○を、間違っているものには×を記入しなさい。

- (○) ダイコンはダイコン属、カブはアブラナ属に分類される。 10点
- (×) ダイコンの種子の生薬名は蕪菁子といい、カブの種子の生薬名は菜服子という。
- (×) ダイコンの葉は丸い葉でカブは鋸歯がある。
- (○) ダイコン、カブの花弁はともに4枚で十字架状である。
- (○) ダイコンには辛味成分があり、昆虫や草食動物からの食害防御手段となる。

ダイコンとカブは似ているが葉の形で区別できる。アブラナ科で属は異なるが、花弁は同じ4枚で十字架状である。種子ができるまでに食用にされるため見る機会は少ないがともに薬用部(薬となる部分)でもあり生薬名がダイコンの種子は菜服子、カブの種子は蕪菁子という。

3】()内に、正しいものには○、間違っているものには×を記入しなさい。 8点

- (○) アサガオの採集・調整方法は、9~10月に果実を採取して天日で乾燥(陽乾)させる。果皮は、カラカラに乾いたら取り除き、種子だけを集める。種皮の黒紫色のものを黒丑(こくちゅう)、黒牽牛子(くろけんごし)、黄白色のものを白丑(はくちゅう)、白牽牛子(しろけんごし)と呼ぶ。
- (○) 花期のドクダミの地上部の生薬名を十葉といい、その基原植物は北海道の南部から本州、四国まで日本全土の陰地、湿地に自生する多年草草本である。果実(さく果)は球形で、残存する花柱の間で裂け小さな種子を多数出す。単為生殖であり、花粉は働きをしない
- (○) オオバコの生薬名で車前子と言うのは種子であり、利尿、止瀉、鎮咳、去痰、眼病などに用いられる。
- (×) イタドリの生薬名を附子といい、本種の塊根を加工したもので、アコニチン(ブシジエステルアルカロイド)などの成分を含み、鎮痛、強心、利尿、代謝促進などの作用がある。

アサガオ：記載のとおり。

ドクダミ：記載のとおり。

オオバコ：記載のとおり。

イタドリ：問題の文章は、トリカブトに関するものである。イタドリの根茎の生薬名は虎杖根であり、根茎を用いる。下剤、利尿剤、痛経剤として、常習便秘や老人の下痢、膀胱炎、尿路結石、月経不順、閉経などに適用する。

- 4】 () 内に正しいものには○、間違っているものには×を記入しなさい。 8点
- (×) ツバキの薬用部分は花と種皮を除いた種子です。
 - (○) 生薬名ウレンボの基原植物ヤブカラシは、別名をビンボウカズラともいう。
 - (×) 生薬名ハンロウの基原植物ハコベは秋の七草の一つです。
 - (○) ヒナタイノコズチを基原植物とする生薬は関節炎、リュウマチにも用いる。

5】 ①～③の植物について、最も適切な用語を用語欄より選び、解答欄に記入しなさい。 10点

- ①雌雄異株。早春、大きな苞をつけた花茎が伸びる。これは春の山菜としてよく知られ、てんぷらにして食べる。また、花後に伸びた葉柄を煮物や佃煮にして食べる。
- ②初秋に管状花のみの小型の頭花を多数つけ、風媒花のため花粉が多く飛散し、秋の花粉症の原因となる。柔らかい葉を草餅にして食べる。
- ③在来種の花粉は稔性で受精を行うが、外来種は単為生殖で花粉は不稔性である。根はコーヒーの代用とすることができる。

解答欄

植物名	薬用部分		用途	
① フキ	花蕾	根	鎮咳去痰	
② ヨモギ	葉	葉裏の毛	止血	艾による灸
③ タンポポ	全草		乳汁不足	乳腺炎

用語欄

ドクダミ、ヨモギ、アサガオ、タンポポ、ハハコグサ、根、種子、花、花蕾、葉、全草、葉裏の毛、葉表の毛、膀胱炎、鎮咳去痰、疲労回復、乳汁不足、下痢止め、止血、不眠症

- ① フキは、キク科フキ属の多年草、雌雄異株。花蕾（花茎）がフキノトウで日陰干しにし、乾燥させたものを、鎮咳・去痰、苦味健胃薬とする。夏から秋に根茎を掘り水洗いし乾燥させたものを蜂斗菜と言い、咳止め、解毒に用いられる。
- ②ヨモギはキク科ヨモギ属の多年草。5～7月に採集した葉および枝先を日陰干しにし、よく乾燥させたものを艾葉と言う。体を温めたり、止血の効がある。漢方処方の方帰膠艾湯に配合されている。5月頃に葉を採集し日干しした後に臼などですり潰し、篩で葉裏の毛だけを採取したものをモグサと言い、灸に用いる。
- ③タンポポはキク科タンポポ属の多年草。春から夏の開花前後に全草を採集し、日干したものを蒲公英、秋から早春にかけて採集した根を日干ししたものを蒲公英根と言い、胃炎、消化不良、大小便不利、感冒、強壯、乳腺炎、乳汁不足などに用いる。

6】ヒナタイノコズチについて () に入る適切な用語を用語欄から選びその番号を記入しなさい。

10点

(5)科の植物で、生薬名(9)の薬用部分は(18)であり、茎は方茎で堅く(11)があり、秋には赤くなる。葉は(4)で、果実は衣服や動物に(16)して運ばれ、成分は(14)で、茎の節の膨らみが(15)に似ている。用途は通経、浄血の目的をもち、入浴剤として(12)、(17)に使う。

用語欄

1.長楕円形 2.緑色 3.互生 4.対生 5.ヒユ 6.ハンロウ 7.対生 8.全草
9.ゴシツ 10.多年草 11.太い節 12.腰痛 13.タンニン 14.昆虫変態ホルモン
15.牛の膝頭 16.付着 17.関節痛 18.根

7】空欄に下記の用語欄から適切な用語を選び記号を記入しなさい。 10点

薬用部分	生薬名	用途	植物名
I	麦門冬	(J)・(M)	B
H	F	(K)・(J)	カラスビシャク
根茎	ボウコン	(L)・滋養	A

用語欄

A.チガヤ B.ジャノヒゲ C.カラスビシャク D.ボウコン E.麦門冬 F.半夏
G.根茎 H.塊茎 I.塊根 J.鎮咳・去痰 K.鎮吐 L.利尿 M.滋養

チガヤは薬用部が根茎(ボウコン)利尿として使う、糖類、有機酸も含有され滋養としても使われていた。

ジャノヒゲは薬用部が塊根(麦門冬)鎮咳、去痰、滋養として使う

カラスビシャクは薬用部が塊茎(半夏)鎮吐、鎮咳、去痰として使う

8】ボケとクサボケの説明である。()に入る適切な用語を用語欄から選び、その記号を記入しなさい。

ボケは(B)で生薬名は(C)である。幹は高さ(F)である。 12点

クサボケは(A)で生薬名は(D)である。茎の下部は伏せぎみで高さ(E)である。

用語欄

A.日本特産 B.中国原産 C.木瓜 D.和木瓜 E.30-60 cm F.2 m前後

9】ツユクサについての説明である。()内に適切な用語を用語欄から選びその番号を記入しなさい。

10点

梅雨が明けてしばらくすると、綺麗な青紫色の花を咲かせたツユクサ(露草)の群生がみられます。

ツユクサは(8)草ですが、梅雨が終わり夏の終わりごろまでに採取し、よく洗ってから乾燥し、(4)容器に保存します。葉は(1)、(3)で、大きく重なった2枚の青紫色の花弁が目立ちますが、よく見ると小さな(7)色の花弁がもう1枚下部にあるのに気づきます。その形や色から帽子花(ぼうしばな)、(2)ともよばれ、花弁の汁を衣にこすりつけて染めていたことから古くは着草とも呼ばれていました。

開花期に全草を乾燥させたものが生薬オウセキソウ(鴨跖草)で、その(10)液を解熱、下痢止め、脳血栓予防、(13) (尿の出がよくなり浮腫を去る)、喘息などに用います。また、生の葉、茎を搾った汁を外用として(5)に用います。

園芸種のおオボウシバナの花弁からとった青汁で紙を染めたものが(6)という製品になります。これを水に浸して染み出た色素を友禅染などの下絵を描くのに用いられています。

用語欄

1.互生 2.青花(あおばな) 3.単葉 4.密閉 5.化膿 6.青花紙 7.白 8.一年
9.絞り汁 10.煎 11.便秘 12.痛み 13.心臓病 14.熱

10】ノアザミとハハコグサの説明である。() 内に正しいものには○、間違っているものには×を記入しなさい。 8点

(○) ノアザミは多年草で、地上部は50-100 cm、時には2 mになる。

(×) ハハコグサはオギョウといい、秋の七草の1種である。

(×) ノアザミの頭花は卵形で紅紫色、まれに白色である。

(○) ハハコグサは全株に白毛を生じ、その毛が毛羽立っている。

ハハコグサは春の七草の1種

ノアザミの頭花は筒状

11】生薬の用途について説明している。基原植物名を下記の [] の中から選び () に記入しなさい。

4点

婦人病に用いる代表的な生薬である。産前産後、血の道症や月経不順、更年期障害などに広く用いられる。(モモ)

[アンズ モモ ウメ]

上記の基原植物は浴剤や外用として、あせも・湿疹・かぶれなどにも使用される。その植物の薬用部分を下記の [] の中から選び () に記入しなさい。(種子・蕾・葉)

[未熟果実 種子 種子・蕾・葉]

ウバイは、清涼収斂作用があり、内服では鎮咳、去痰、解熱、止瀉、駆虫、収斂薬として応用され、外用として肉芽の過剰形成などに応用される。

キョウニンは、利尿、鎮咳、去痰薬として、喘息、気管支炎などの咳嗽、呼吸困難、浮腫などにまた緩下剤として便秘にも用いる。油は軟膏や毛髪油などに用いられる。

ウバイは未熟果実の燻製を用いる。

キョウニンは種子を用いる。